じどうしつだより　休校特別版

2020年5月1日発行　四日市市立図書館
TEL　059-352-5107

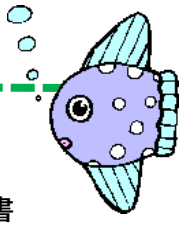
心は外へ！

休館中の図書館司書から、休校中の中学生のあなたへ

STAY　HOME！　図書館はずっと休館しています。みなさんも、自由に外へ出られない日が続いていますね。これをチャンスと、思うぞんぶん家にこもっている人も、外へ出られなくてつらい人も、いま、本を手にしてみませんか？

本を読んで得られる想像力は、いつだって自由。あなたの心は、どこへでも出かけられます。私たち図書館司書からみなさんへ、外の世界へのカギを贈ります。

研究者は、面白すぎる！



『バッタを倒しにアフリカへ』
前野ウルド浩太郎／著　光文社新書
『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。』
川上和人／著　新潮社
『マンボウのひみつ』
澤井悦郎／著　岩波ジュニア新書
『恐竜まみれ』
小林快次／著　新潮社

究極のオタクとは、研究者である。と思う。

小学生の時、「星のカービィ」に出てくるマンボウがすでに好きだったとか、ずっとファーブルがヒーローだったとか、中学生でアンモナイト化石を発掘してから発掘にハマったとか、実は大学に入るまで全く鳥に興味がなかったとか。

道のりは様々でも、研究のためならどこへでも行く。断崖絶壁、ゴビ砂漠、バッタの砂漠、船酔いしながら、それでも行く。

駆け出しの研究者は、お金がなく、身分も不安定。研究のために身も食費も削り、結果をアピールし続けて極めてきた人たちの書く物は、圧倒的におもしろい。（ちきり）

町の中の、よく見る*アレ*を探せ

家の周りを散歩していて、パイロン、カーブミラー、自販機の横の回収ボックスなど、今まで見過ごしていたものを発見すると、今までと違った風景が見えてきます。

おすすめは工事現場にいる、ウサギやカエルなどのバリケード。単管バリケードという名前だと、**『街角図鑑』（三土たつお/編著　実業之日本社）**を読んで初めて知りました。

こんなふうに、新たな発見をするのも、本を読む楽しみの一つです。

『日本飛び出しくん図鑑ハマりすぎ注意』（関将/著　辰巳出版）『アウトドア般若心経』（みうらじゅん/著　幻冬舎）で、日本全国の看板や飛び出しくんの写真を眺めながら、旅した気分を味わうのもいいね。散歩ついでに写真をとって、コレクションをSNSにアップしても面白そう。

『お菓子の箱だけで作る空き箱工作』（はるきる／著　ワニブックス）を手本に、家でいつも食べているお菓子の箱を、空飛ぶ船や、ライオンや、ロボットにしてみるのもおすすめ。めざせインスタ映え！（河井）

飛ぶ船に乗って、世界へ

『飛ぶ船』
ヒルダ・ルイス/作　岩波書店

4人きょうだいのピーターが手に入れた、古い小さな船のおもちゃ。この船は、魔法の「飛ぶ船」だった。

きょうだいは、古代エジプト、ウィリアム征服王時代のイギリス、北欧神話やロビンフッドの時代など、数々のタイムトラベルの冒険へと旅立つ。

月日がすぎ、大きくなったきょうだいは、とぶ船での冒険を少しずつ忘れ始める。船を返す時が来たことがわかったピーターは、ひとりで最後の冒険にむかう。

この話が今から70年くらい前に書かれたものだということにびっくり。

これを読んだあなたの心に、すばらしい「飛ぶ船」があらわれますように。（野崎）

文系のハンティングは、これだっ！

国語辞典を作るために、新しい言葉、聞きなれない言葉をどんどん集めている**『ことばハンター』（飯間浩明/著　ポプラ社）**。

見つけた言葉はいつでもどこでもカメラに収め、言葉の使われ方や意味をメモ。テレビも音楽もチェックして、家の中でも言葉のハンティングをかかしません！あなたもやってみませんか？

言葉の辞書で調べたり、使われ方を考えたり、大人の人に聞いてみたりしていくうちに、言葉の面白さに目覚めるかも…！

文字ばっかりはイヤというあなたには**『こども文様ずかん』（下中菜穂/著　平凡社）**、**『文様えほん』（谷山彩子/作　あすなろ書房）**はいかが？どの神社やお寺にもあるあの形、それぞれの家の家紋など。形ハンターになろう！中華料理屋でいつも見る模様はない？世界の模様はどんなものがある？

これは「ことばハンター」もハンティングの予感です！（石田）

はるかな宙を見上げて

『宇宙の地図 Cosmic Atlas』
観山正見・小久保英一郎/著
朝日新聞出版

外にあまり出られない今、もっと遠くの宇宙のことを考えてみませんか？

私のお気に入りの写真は、ピンク色がとてもあざやかな「星形成領域NGC 346」。

もう1つのお気に入りが、「星形成領域NGC 3603」。こちらも白や水色のまばゆい光がとても綺麗です。

そのほかの写真を見ても、幻想的な宇宙空間が広がっています。宇宙は暗いイメージがありますが、暗いからこそ美しく色が映えるのだと思います。

自分の目で見られる星の数は限られていますが、夜空を眺めてみてはどうでしょうか。その先にはどれくらいの星やガスが輝いていて、どんな景色を生み出しているのか、想像してみるのも面白いかもしれません。（嶋田）